

# 1 ブロックの紹介 (和歌山病院入院生)



# 1 ブロック

(和歌山病院入院生)

1 ブロックには、学校に隣接する独立行政法人国立病院機構和歌山病院の重症心身障害児者病棟に入院している児童生徒が在籍しています。医療的な管理の必要な児童生徒が多く、それぞれの実態に応じ、病棟内及び本校で学習しています。

# 病棟内の授業

- ベッドサイド
- デイルーム



# ベッドサイドの授業

病室内で授業をしています。ベッドサイドでは、教師と児童生徒がじっくり関わり合うことができます。呼吸器を装着しながら授業をする場合もあるため、健康状態に応じた場所で授業を行います。



## ベッドサイドの授業

障害のため自由に身体を動かすことに制限のある児童生徒は、わずかに表情を変え、指先を動かし、自分の気持ちを表します。教師はその思いを言語化してフィードバックしながら一緒に活動します。児童生徒たちは徐々に好きなこと（興味・関心）を増やし、自分の思いや学びたいことを伝える力をつけていきます。

# デイルームの授業

病棟内の共用スペースで授業をしています。同じ病棟にいる児童生徒が集まって、一緒に授業をすることができます。ベッドサイドより広いスペースで身体を動かしながら活動することができます。



# デイルームの授業

デイルームは病室よりもスペースが広く、車椅子で動きながら活動をしたり、大きな教材を使って授業をしたりすることができます。ベッドから移乗して車椅子に座ることで姿勢が変わり、覚醒が促されたり、学習意欲が高まったりします。学校に行くには少し体調が心配な日でも、病棟内のデイルームなら近くに病室もあるので安心です。

# 学校内の授業

- 本校
- はまかせ教室



# 本校の授業

体調も良く落ち着いて学習できるようになったら、学校に登校して授業を行います。2ブロックの児童生徒たちと交流をすることもあります。



## 本校の授業

体調が良く登校できる日は、ホームルーム教室で他病棟のクラスメイトと一緒に授業をしています。クラスメイトと会うと意欲的に学習に取り組める姿が見られます。視聴覚室でピアノ演奏を聴いたり、図書室で司書の先生に読み聞かせをしてもらったり、学校に来たら出会える児童生徒もたくさんいるので、みんなに声をかけてもらって交流が広がります。

# はまかぜ教室の授業

病院の敷地内にも本校の分教室があり、「はまかぜ教室」と呼んでいます。はまかぜ教室にはたくさんの教材を置いていて、毎日授業を行っています。



# はまかぜ教室の授業

はまかぜ教室では、ブランコに乗ったりエアポリンで揺れたりなど、大きな教具を使って粗大運動の授業をしたり、黒いカーテンで暗室にしてブラックライトを用いて「みる・きく」の授業などをしたりしています。

冬は暖かく夏は涼しく、室温を調整することができるので、安全に快適な環境で授業をすることができます。